

水晶体と網膜におけるルテイン研究

1998

網膜下腔血液成分におけるレチナールとカロテノイドの発生を確認

中国の2病院に勤めるチャン博士は、網膜下腔血液成分に高濃度のレチナールとルテインが発生することを確認しました。レチナール結合蛋白質が存在することもわかり、ルテインもそれら蛋白質に結合されている可能性を示しています。

1997

ルテイン量が眼球水晶体密度に関連

アリゾナ州立大学のピリー・ハモンド博士の研究により、黄斑のルテイン量が多い被験者は水晶体密度が低いことがわかり、ルテインが水晶体密度の増加を遅らせる可能性が示されています。